

全国で人的交流本格化

航空宇宙産業参入へ

ネット構築 役割分担で課題対応

次世代型航空機部品供給ネットワーク（OWO、大阪市西区、田中弘一代表、06・6443・3855）は、航空宇宙産業への参入を目指す全国のグループとの交流を始めた。中小企業が航空宇宙産業に参入するには、技術力以外のノウハウや経験が必要なため、緩やかなネットワークを構築する。人的交流から始め、グループ相互が役割分担し、諸課題に対応することも検討する。

OWOは人的交流の環境で、まんてんプロジェクト（横浜市）が13日に横浜市内で開く「宇宙航空産業全国中小企業地域連携シンポジウム」に参加する。同プロジェクトは神奈川県の実業種交流グループを母体に航空宇宙関連部品の共同開発、製造を目指す団体。

同シンポには北海道宇宙科学技術創成センター（札幌市）や栃木航空宇宙懇話会、ウイングウィーン岡山（岡山市）なども参加予定で、OWOは活動報告とともに交流を深める。

このほか中部航空宇宙産業プロジェクト（名古屋市中区）との連携も推

進する。同プロジェクトは航空機部品のアフターマーケット参入を狙い航空関連の部品製造承認（PMA）の可能性を調査中。OWOの活動が本格化すれば、中部との連携も不可欠と判断した。

田中代表は「全国に多

くの同趣旨（航空宇宙ビジネス参入）のグループが活動しており、それぞれが役割を決めれば、効率的に新規参入できる」としている。

OWOは05年4月、航空機産業への部品供給を目指す大阪の中小企業が集まって発足。会員は他府県を含め、正会員が21社。